



金 沢 大 学 長

山崎光悦

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むことを大学憲章に掲げています。2016年度から始まった国立大学の第3期中期目標・中期計画期間中の機能強化のための3つの類型から、金沢大学は第3類型を選択しました。具体的には、世界と伍して卓越した教育研究を展開する大学、いわゆる「世界卓越型大学」を目指す方針に沿って、全学を挙げて改革を推進しています。

教育においては、学生が卒業までに身に付けるべき能力として「金沢大学<グローバル>スタンダード」(KUGS)を策定し、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材の育成を進めています。2016年4月に創設した国際基幹教育院では、KUGSに基づく約30のグローバルスタンダード(GS)科目の中に、「環境学とESD」を開講し、21世紀を生きる社会人として環境問題についての必要な知識を身に付けるための教育を行っています。

研究においては、国内外の研究機関と連携しつつ、環境に関する研究のより一層の強化・充実を図っています。2017年7月には、国立研究開発法人産業技術総合研究所と「エネルギー・環境分野に関する包括的連携協定」を締結し、相互のグリーン・イノベーションの推進による“超”省エネ・低炭素社会の実現を目指しています。

一方で多くの自治体と連携したESD活動も積極的に推進しており、「能登里山里海SDGsマイスター育成プログラム」などを通じ、持続可能な社会の礎となる先駆的人材の養成に取り組んでいます。

金沢大学では、教育研究活動に伴う環境への影響を最小限に抑えるよう、環境負荷の低減を目指し、全学的に環境マネジメントシステムを実施しています。環境負荷の少ないエコキャンパスを目指し、資源・エネルギー使用量の削減、温室効果ガスの排出量の削減、自然環境の保全管理に継続的に取り組んでいます。

今後も、SDGsの達成のために大学の果たす役割が大きいとの認識のもとに、持続可能な社会の構築に貢献できる研究を推進するとともに、社会変革をリードするイノベーション人材の養成を目指し、2021年4月には、文理融合型の新たな学域・学類「融合学域先導学類」を設置する予定です。

2020年度はコロナ禍において、新しい生活様式が求められています。大学においても新しい教育研究様式を模索する中で、環境問題への意識の醸成と、環境負荷の少ない教育研究活動の推進を図ることにより、大学活動による環境負荷のさらなる低減を目指します。